

報道関係各位

2023年1月31日
株式会社日本アクア
(東証プライム 1429)

建築現場の溶接・溶断火花による火災リスクを軽減 防火コート「アクアバリア」を新発売

現場発泡ウレタン断熱材シェア No.1 の株式会社日本アクア（本社：東京都港区、代表取締役社長：中村 文隆）は、2023年2月1日より防火コート「アクアバリア」を発売いたします。当社「アクアフォームシリーズ」に代表される硬質ウレタンフォーム断熱材は、断熱性が高い反面、火気に弱いため、建築現場における溶接・溶断の火花が直接または間接的に着火し、火災事故につながるケースがあります。当社では、建築現場における断熱材の火災リスクを軽減することを目的に、ゼネコン等施工主の意見を取り入れて自社ブランドの耐火コート開発に取り組んでまいりました。建築基準法で規定する発熱性試験、JIS（日本産業規格）で規定する溶接溶断火花試験、現場での塗布テスト等のプロセスを経て、この度の発売に至りました。



 NIPPON
AQUA

防火コート

アクアバリア

スピード施工でLow-cost
建築現場の安全を守る吹付防火コート

 NIPPON
AQUA

株式会社 日本アクア
〒108-0075 東京都港区港南2丁目16番2号 太陽生命品川ビル20階
TEL:03-5463-1117(代表) FAX:03-5463-1118
<https://www.n-aqua.jp>

防火コート アクアバリア

建築物に使われる硬質ウレタンフォームなど、火気に弱い有機系断熱材に直接塗布するだけ。現場作業で発生する溶接・溶断火花による着火を防ぎ、防火性を発揮します。火花をはじいて建材を守る防火コート材で、**建築現場の火災リスクを軽減**します。

アクアバリア 8つの特長

工期短縮	吹き付けるだけで短時間に施工。ウレタンフォーム取付施工並行可能。(40〜70㎡/人/日) ※高粘着性をもち、下地、形状によって施工時間差あり	プライマー不要	取付前の下塗りが必要。手荒れをカバーするプライマーに施工できます。
性能	溶接溶断火花をはじく JISの試験をクリアする優れた性能。溶接・溶断火花をはじき着火を防止。	軽量化が可能 2〜3層の塗布で性能発揮。軽量なので建築物への負担も軽減。(使用量約0.08kg/㎡)	硬化速度が早い 塗布後一晩でしっかり硬化。霜降の日程計画への影響を最小限に。
	小型機械で簡単施工 塗布機械は小型で100V対応。持ち運びがラクで作業もスムーズ。	色の変更が可能 現場に合わせて色無指定可能。防火コートの有無がひと目でわかります。 ※料率、納期別途ご確認下さい。	日塗工色見本 N-55(N5.5) Paint-color net ※日本塗料工業会発行の色見本を参照してください。
その他の特長			

防火コート施工例

下地が見えなくなる程度に塗布するのが目安。スピーディな施工で建設現場の火災事故を防ぎます。

【施工面積26.6㎡、割合時間1回10分、取付時間22分】

溶断火花試験C種 / 性能試験結果

アクアバリアは、JIS A-1323 溶接・溶断のスパッタ(火花)に対しC種の試験条件をクリアしています。(JIS A 1323について) 建築工事用シートの溶接及び溶断火花に対する難燃性試験方法

【合格基準】
条件：溶接の厚さ3.2mm、切断速度70cm/分、融解圧力2.0kg/cm²、厚さ3.2mmの火花発生用鋼板を燃焼するとき発生する火花に対し、飛散及び着火の有無を有無観察がないこと。

品質性能試験報告書

JIS A 1323に規定する
C種の難燃性試験

※第三者試験機関による建築工事用シート塗布及び溶断火花に対する難燃性試験に合格していることが、難燃性を証明するものではありません。※本業に必要とされる場合は試験機関に入社された試験機関に委託して試験するものをご検討ください。

溶接・溶断火花試験

厚さ3.2mmの火花発生用鋼板を溶断して火花を発生させたところ、アクアバリアは火花をはじき着火による影響はほとんどありませんでした。この結果、JIS A 1323建築工事用シート溶接及び溶断火花に対する難燃性試験方法のC種に合格しました。

	PUF+アクアバリア	PUF+無機系防火コート	PUF(ウレタンフォームA1H)
C種試験			
試験後の状態			

■ アクアバリア基本物性

項目	アクアバリア	無機系防火コート	備考
乾燥密度 [g/cm ³]	1.5±0.15	0.25±0.03	絶乾時の値
熱伝導率 [W/(m・K)]	0.128	0.060	JIS A 1412-2
圧縮強度 [N/mm ²]	15.34 ^a	0.60	JIS R 5201
接着強度 [kPa]	374 ^b	145 ^c	-

a) 10mm角で測定
b) JIS A 9535 プライマーなし
c) JIS A 6909 プライマーあり

■ アクアバリアの防火性能 (発熱性試験例)

防火コート	基材	コート材厚み [mm]	総発熱量 [MJ/m ²]	最高発熱速度 [kW/m ²]	有重量 [g/m ²]	【試験条件】
アクアバリア	石膏ボード	0.3	4.2	57	63	・試験時間20分 ・評価試験は特日本アクアテクノロジーズグループにて実施 ・試験結果はN-30の平均値 ・基材石膏ボード12.5mm ・基材火を鋼板3.2mm ・JIS A 9913 難燃性試験材料を定める時 該試験材料に塗布される有機物の量が1m ² に200g以下のもの
アクアバリア	石膏ボード	0.5	5.7	160	136	
アクアバリア	亜鉛鋼板	0.1	1.4	19	57	
アクアバリア	亜鉛鋼板	0.4	2.7	93	115	
無機系防火コート	石膏ボード	4.3	4.5	5	データ無し	

アクアバリア注意事項

- (1) 火気厳禁
一部の原料は可燃性有機物に該当しますので施工現場周囲は火気厳禁をお願いします。施工1日経過後でもヤケや焦り跡、溶融される場合は火災原因(火)の引火危険を要しますので、現場への危険防止のためご注意ください。
- (2) 施工後の養生
原料を塗布後1日経過後に養生が必要となりますので保護材は確実に施工してください。
- (3) 換気、蒸気・濃霧防止対策
施工時に原料蒸気等の発生がありますので換気や濃霧発生防止の対策をお願いします。地下空間等換気が十分でない場合は換気設備を別途設置をお願いします。
- (4) 原料保管における注意事項
当社は原料目録に記載のない室内環境での保管をお願いいたします。また、湿気や汚染を防止するために必ずしも密閉して保管願います。その他に関しては製品ラベル記載の注意事項をご確認ください。
- (5) 原料取り扱い
原料の取り扱いに関して安全性、GDS、騒音レベル等関係の参考資料をご用意しております。

「アクアバリア」は、建築物向け断熱材「アクアフォーム NEO」等に塗布することで防火性を発揮します。その開発コンセプトは、速乾性、高粘着性、低価格であり、「アクアフォーム NEO」の施工に下塗りなしで追従施工可能、短時間で硬化し、薄層塗布で接着力が強いいため脱落が発生しにくい仕様となっています。当社では従来品の不燃断熱材「アクアモエン NEO」に加え「アクアバリア」を商品ラインナップに加えることで、様々な施工ニーズに応えてまいります。

以上

【会社概要】

会社名：株式会社日本アクア

上場市場：東京証券取引所 プライム市場（証券コード：1429）

代表者：代表取締役社長 中村 文隆

所在地：東京都港区港南2丁目16-2 太陽生命品川ビル20階

設立：2004年11月

事業内容：建築断熱用硬質ウレタンフォーム「アクアフォーム」販売・施工

住宅省エネルギー関連部材の開発・製造・販売

URL：<https://www.n-aqua.jp>

【お問い合わせ先】

株式会社日本アクア 管理本部 経営企画部 小室 昌彦

電話番号：03-5463-1117

Eメール：m.komuro@n-aqua.com